婦人と新社會

山田わか主筆

八月號

毎月一回一日發行　第參拾號　大正十一年八月一日發行

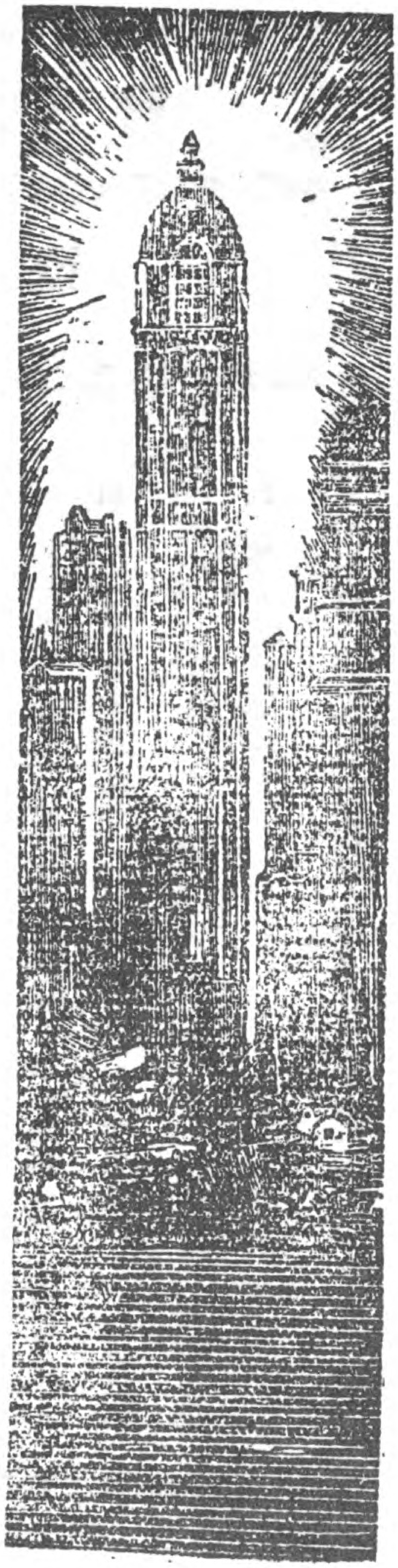
東京[illegible]婦人と新社會[illegible]

婦人と新社會

八月號

風は、海の上を渡る時に、浪の各々から目に見へないような海の精氣を集めて、そして、陸へと運んで來る。森や籬は綠の大浪小浪を打ちながら、風が運んだ夏の其の精氣を呼吸して生々してゐる。高い樫の梢から、尖つた松葉の枝から、楕圓形の柳の葉から、又は、公孫樹の絕頂から、吹き下され、青々した畑の上をかすめて、日光は踊り、呼吸してゐる。咲き誇つた花の色や、蜂や、小鳥の音樂に浸されて、大氣の流れは生きてゐる。そして、私達は其の生きた大氣の流れを呼吸してゐる。土の力は樹の幹を通し、葉を通して空中に其の氣を吐いてゐる。かくの如くに、不朽の食物に養はれて、私達の心は無限に廣く、無限に深く、空を飛ぶ燕にも、草の根元の小さな蟲にも、遙かに遠い彼方の地平線に迄もひかれて行く。

（ジエフエリース）



人間の生活と動物の生活

絶對の意味での自由と云ふものが、私共人間の世界に存在し得ると云ふことを私は信じません。如何なる時代、如何なる國にも絶對自由がなかつたことを私は信じます。

私共の生活は必ず幾分かの習慣、法律、信仰、理想などゝ云ふものによつて組織され、進み行く方向を定められてあります。つまり、それ等のものが、私共の生活の目

的をかたちづくり、私共の活動の方向を定めてゐます。

云ひ直せば、規則があると云ふことが人間社會の特色です。それが、人間の社會と動物の社會とを區別してゐる處であります。如何なる動物の社會に於ても、其の動物の行動に關して一般が守らねばならぬ規則を宣言し、應用してゐるとは考へられません。

尤も、動物の社會に於ても、生活の組織と云ひ得るものが全然ないのではありません。どれだけの知識が彼等の生活を組織して居るかを決定することは難しいことですが、とにかく、高等動物のうちには組織らしいものがあります。聯合して獲物をあさつたり、一ヶ所に集まつて遊んだり、仲間に警報を與へたりします。鳥類や哺乳動物が番兵を使用することや、作用の配合、分業などを見ると其處に可なりの分量の相互理解があるやうに思へます。そして、これは人間の生活に類似して居るものでありますが、其の類似はどの邊迄進められ得るものか、又、其の習慣とか、相互理解とか云

ふ言葉が人間の場合と同じやうに動物の社會にも應用できるものかどうか、それを考へて見るのは面白いと思ひます。

下等動物の方に順々に下つて行つて見ると智的活動の範圍がだん〳〵に狹くなつて來ます。けれども、猶、彼等の行動は一定の規則に從つて居ることが觀察されます。最も下級な有機體でも矢張り與へられた周圍の狀態の下に一定の方法に從つて行動します。たとへば、さはられるとちゞこまつたり、其の足のやうなものを引きこませたりします。又は、自身の食物となるものがある處へ〳〵と進んで行きます。つまり、それ〴〵の狀態の下に、危險を避けたり、食物を漁つたりするために最善な方法に從つて行動をとるのです。其れが知識に導かれて居るのだとは思へませんが、併し猶、それでも有機體的生活の必要に其の行動が適して居ることを發見します。

人間の社會に於ても、生活の社會組織の基礎は矢張り人間の動物性のうちに存在してゐることを私共は發見します。高等動物の或る種類と同じやうに、人間も確に群居

的な動物です。人間の興味の主もなるものは、自分の配偶者や子供に對する愛、及び自分と自分の仲間との親密な關係又は競爭にあります。つまり、人間の愛、嫌ひ、喜び、悲しみ、名譽、怒り、優しさ、大膽さ、臆病さ、凡てこれ等は人間の永久的な性質であつて、これは人間が先代から受け繼いだもの、云ひ直せば、遺傳の構造に屬するものです。其の度に於てこそ違ひがありますが、併し、凡ての人間に共通なものです。先づ、一般的に申ますならそれ等は本能の性質であります。けれども、人間の其の本能はどうにでも形を變へられる樣なものになつてしまつて居ますから、其れを一定の形に造り上げるには經驗と云ふ刺戟を必要とするようになつてゐます。

動物に於ては、下等であれば下等である程、反動の方法が機械的であるのが著しいのに反して、人間に於ては其の機械的部分が最小限度になつてゐます。尤も、身體の普通の働きは先づ機械的であるに相違ありません。歩むこと、走ること、倒れそうになつた場合に倒れまいとしたり、咳をしたり、呼吸したり、することは人間も動物も

同じやうに機械的であります。

處で、はつきりと人間的な行ひになると、其の遺傳的な構造の作用が非常に異つて來ます。たとへば、饑じさや、のどのかはきは本能であるには相違ありませんが、其の饑じさや、のどのかはきを滿足させる方法は、經驗によつてか、或ひは又、敎育によつて一定してゐます。

戀愛生活、及び、家庭生活も矢張り本能に其の基礎を持つてゐます。云ひ直せば、戀愛生活や家庭生活は、人間の腦髓や、神經の構造のうちにある遺傳的の傾向を基礎にしてゐるのです。そして、其等の衝動を滿足させることに關する凡てのものは、個人々々の經驗、其の個人が屬する社會の法律、習慣、又は、不圖、出會す異性、其の異性との交際の仕方等によつて決定されます。

どうにでも、其のかたちを變へる事が出來る本能が人間の人格の基礎となつてゐます。そして其の人格の力が、其の人の經驗をどう云ふ風に取り入れるかを定めます。

もし、經驗と云ふことがなければ、其の人の本能は單なる白紙であります。

たとへば、人が自分の周圍の人々の意見によつて動かされると云ふことは、普通の人間の自然の傾向です。周圍の人の意見は、人の行爲の有力なる動機となります。ですから、周圍の人々の意見の種類によつて、人の行爲の種類は定まると云ふことになります。科學を貴ぶ地方では科學の研究が盛になり、繪畫を好む地方では立派の繪をかこうとする功名心が盛んであると云ふやうに。又世界の或る部分に住んでゐる野蠻人は、人間の毛の付いたまゝの頭蓋骨を澤山所有してゐるのが最も名譽なので、女子供を待ち伏せして其の頭蓋骨を殺ぎ取るのが習慣だと云ふことです。凡てこう云ふ場合に於て、同じ遺傳的、則ち、本能的な要素が働いてゐるのです。つまり、周圍の人々が持つてゐる感情に人は適應しよう〳〵とするのです。

或ひは、又、人が自分の權利を主張すると云ふのも同じく人間性です。つまり、本能です。人は自分が所有し得ると思ふものを得ようとして努力します。けれども、何

を慾望するか、又、如何にして其れを獲得するかと云ふ方法手段は其の國々の習慣に依つて決定されます。云せ直せば、他人はどう云ふ風にして自分の主張を通し、自分の慾望するものを得たかを見て、それから、自分の行動を決定します。

異性に對する嫉妬心は人間性に深い根を持つてゐるものであるにも拘らず、此の情緒ですら習慣に依て其の作用は變ります。たとへば、或る種類の野蠻人は自分の妻を客に借します。けれども、もし、妻が其の客に對する時と同じ行爲を自分の意志に依て他の男にするならば、彼女の夫は彼女を殺してしまいます。一方の場合に於ては、其の野蠻人は自分の所有權を行ひ、他の場合に於ては、妻が夫の所有權を犯したことになるのです。そして、こう云ふ行爲を決定するものは其の國の習慣なのです。

して見ると人間社會に於て人の行爲を規定する狀件は非常に變遷してゐる事が分ります。最始はは
つきりしてゐた本能がだん〳〵ぼんやりして來て一般的になつて、そして、其の本能が人格と化して來た事が分ります。同時に理性は習慣に出逢ひ、

そして、行爲を其の習慣に合せて行かなければならなかつたことも分ります。處で、其の習慣とは何でせう。其れは單に慣例に從つた行爲では有りません。行爲に對する判斷力をも含んでゐます。つまり、其の判斷は一般の考へが總括されて發表された言葉です。たとへば、甲が乙を擲り、乙が甲を擲り返へすとします。そして、其れを目擊して居た丙が乙の行爲を正しいとか正しくないとか云ふ時には、丙は自分の判斷の公平であるかないかを其の土地の習慣にたいして見ます。云ひかへれば、丙はさう云ふ場合に一般人が應用する原則にあてはめて當事者の行爲を評價するのです。

で、一般概念を造り其れを應用する力の上に、かやうな規則を造ることが人間の人間たる處で、動物には出來ないことです。其處に、人間と動物の區別があるのです。こう云ふ規則が生れて代々傳へられると云ふ事實が、社會的云ひ傳へをして人の行爲を規定する優勢なる要素となすのです。かやうな規則がないなら、私共は社會の存在すらも考へることは出來ません。

なせなら、人間がお互ひを了解し合ひ、そして、どう云ふ狀態の下には人はどう云ふ風に他人に接するものであるかと云ふことを知るのは、此の習慣に、一般の人が從ふからであります。實に、その習慣に從ふと云ふことが社會の生命です。人は習慣に從ふ、だから、お互を理解する、と云ふことがなくなつたならば、社會を維持してゐる原則は無くなり、結局、社會と云ふものがなくなり、人間の生活は動物の生活と同じレベルに歸へることになりませう。

雷は鳴る。大樹は震へる。大粒の雨は樫と松と羊齒（しだ）の三重に折り重なつた枝を通して垂れ落ちる。アーチ形の枝々の下で電光は、目にも止まらぬような早さで、光る鞭を揮り廻してゐる。雷の爆聲は凡ての樹木を叩き倒すかのように見へる。生ひ繁つて居る草は頭を下げて居る。野ぜりの白い花は地面に打ちつけられて居る。雨は猛烈に地を叩いてゐる。疾風が綠の莖の葉をつんざいて遠く吹き飛ばす。けれども質素な蜜蜂の家は安全である。大樹の根本にしつらへられた其の家は岩石の洞穴の中にあるやうに安全である。やがて、嵐は過ぎ去る。大陽が顔を出す。雨の爲めに空氣はより淸く、より裕（ゆた）かである。丁度美しい詩のやうに。そして、花にはより多くの蜜が出來る。

（ジエフエリース）



消費組合の目的

消費組合の必要は、世界を通じて、日に月に其の急を告げて居ります。で、今、チャーレス・チード著「消費組合」が手に入りましたのを幸いに、其の一部を此處に御紹介致します。原書は佛蘭西語でありますが、其れを英譯したものから、私はとりましたのです。經濟學者として世界に有名なヂードの話を今私が此處でする必要はありません。けれども、此の著「消費組合」は、英譯の外に、獨逸語、波蘭語、葡萄牙語、チエツク語に翻譯されて居るし、其の外ウクレニア語スペイン語に今、現に翻譯されつゝあることを申上げて置きます。紙面の都合がつくだけ、今後も、追々御紹介して行かうと思ひます。

廣い意味に於て云ふと、消費組合は多數の人々が個人的の方法で得る滿足よりも、より以上の滿足を得やうと云ふ同じ必要を感じて共同連結する時に、其處に成立しま

す。

此の定義から見ると、或る物品を組合員各自に供給するには其の物品を製造する必要が生じて來ます。其處で、各組合は其の物品を製産する要具を所有すると云ふことになります。そして、實にそれが消費組合の目的です。併し事實としてはそれは餘程進歩しなければできないことです。最初に於ける消費組合は、只、その會員の必要品を大まとめに購買する事に依て滿足して居ます。則ち、製造人から一まとめに買ふのです。

一般に、この組合の發端は凡ての物品の中の最も必要とする物品を購ふ事から始まつてゐます。つまり、食料品の供給、たとへば、パン、酒、又は其の他の食料品のやうな通常の必要品から始まつてゐます。ですから、消費組合の問題を概括して單なる食料品供給の問題として居る人達もありました。併し、それは此の問題を輕く見てゐると云ふ譯ではありません。

消費組合が目的とする處が勞働階級に、又は貧民により多くの物品を供給する爲であつて、其の外に目的がないとしてもそれは小さな問題ではありません。この問題を疎かにしてはならないと云ふ事を知るには次の要件を考へて見れば充分です。

チャーレス・ブース氏及びローンツリー氏は、英國の都市の全人口の二割七分から三割は勞働階級だと見て居ますが、其の勞働階級は生活に絶對に必要である最少限度の賃銀さへも得て居ない。彼等は其の身體を維持するに必要なる食物を購ふに足らぬ賃銀を取つて居ます。

又、勞働者は自己を養ふための物品を購ふのに、既にその資力が乏しい上に、彼等は其の乏しい資力を經濟的に使用する能力を持たないので尙一層無駄があります。彼等はまとめて物品を買ふことが出來ないので、實際僅かづゝ小賣商人の手から買はなければなりません。ですから、其の物品は第三者又は第四者の手を經ることになります。從つて品質は惡化し、賣價は高くなつて居ます。第三者、又、第四者が皆それ〳〵

の儲けを途中で取りますから。其の上に、彼等が掛買をせねばならない場合には、彼等は知らず〳〵に、又は、無感覺にありとあらゆる詐欺にかゝります。貧しければ貧しい程生活に對する烈しい苦痛に追はれて小商人は餘儀なくごまかしをするのです。

勞働階級は、又、自階級のうちの支拂無能者に對する保險金をも商店主に支拂つてゐます。其の保險金は皆物價の形となつて居るのです。斯う云ふ狀態は次のやうな皮肉な諷刺を以て摘發されて居る程、實際、好ましくない狀態です。『貧民と同じ樣な狀件の下に物品を買ひ得る程、贅澤な富者は多くはない』と。

其處で、消費組合が力强い購買同盟に依つて支へられた時に始めて前述の禍を一掃する事が出來ます。若し、又、組合が廉價一點を目的とするならば、それは市價よりは廉價に物品を分配する事が出來ます。或ひは、又、一般の取引き價格で物品を分配するならば、それは、より以上に滋養を含む食品、より以上に長持ちのする衣類を分配する事が出來るし、又、パン、肉或ひは其の他の凡ゆる物品は、正確な目方から來

る量に於ての増加と云ふ利益をも得ることになります。そして、これが社會衛生の基礎になり、結核病減退の要因となることは確かです。

とは云へ、消費組合は食料品の供給にのみ限られては居ません。これは我々の生活に必要なる衣類、家具、又は、家屋にまで延張する事が出來ます。そして家屋の供給は重要な類目であつて、この組合は建物組合と云ふ分離された名目の下に取り扱はれて居ます。

且つ、又、物質的材料の供給ばかりでなく、智力上の或ひは道德上の材料となるもの、つまり人生の慰安となり喜びとなり福利となる事に貢獻する凡てのものをも含んで居ます。事實に於て既に存在して居るものですが、協同倶樂部、協同劇場、協同新聞、及び協同敎會等は、共に敎へ、共に樂しみ、共に開發して行かうとする人々に於て建設され維持されて居るのです。

消費組合が成功するには、組合が取り扱ふ方面を多種多様にしなければならぬと云

ふのは事實です。如何なるものが要求されても其れが供給されなければなりません。たとへ、全く正反對の方面のものでも、容易に供給出來るやうになつて居なければならない、そして、消費者各員が其のどちらでも選ばねばなりません。

且つ、又、消費組合に於ては物を廉く買るか、或ひは、組合全體の永久の利益の爲に動かすことの出來ない資金を造るかどちらかを選ばなければならない。人は其の兩方を同時に求めることは出來ないのです。が、とにかく、今日に於ては保守主義者であれ、革命論者であれ、有產階級であれ、勞働階級であれ、共產主義者であれ、無政府主義者であれ、新敎徒であれ、舊敎徒であれ、その目的の詳細には差異があるとしても、皆協同の必要を說いてゐます。

猶、又、消費組合は其の直接の目的を目前に置く以外に、間接に凡ゆる方面の目的に、組合の資金を用ふることが出來ると云ふことも注目せられてゐます。たとへば、白耳義に於て又は、佛蘭西の北方に於て、社會主義者の消費組合はその資金を政治的

宣傳の爲に用ゐて居ます。又猶太主義者として知られて居る猶太人達は、倫敦に於て消費組合を組織しました。そして、彼等は其の組合が得る利益の三割を彼等の運動の爲に使用してゐます。つまり猶太の新王國の基礎を造る爲に用ゐて居るのです。これは確に協同的努力の隠れたる目的でありますが、斯う云ふ形のものは他にも多く起ることでありませう。

此の消費組合に深く關係して居た佛國の經濟學者は、最初、組合の唯一の目的は貯蓄する事であると考へて居ましたが、併し、現今に於てはその考へは全く時代後れであります。

其處で消費組合は共濟組合と異なつた處があるか、どうか？　共濟組合でも、病者の爲に用意する形に於て、養老年金のかたちに於いて、埋葬組合のかたち、及び、其の他のかたちに於いて、或る缺乏を補ふ目的を以つて組織されて居るのではないであらうか？　と云ふ質問が起つて來ます。確かに消費組合も共濟組合もその性質に於て

は姉妹です。兩者とも助け合ふ共同一致と云ふことがその思想の源です。けれども、その特色とする點に大きな差があります。共濟組合は、病氣とか、老年とか、死とか云ふ所謂人間の生命を脅かす危險と戰ふのであつて、その性質は博愛的のものです。で以前には、これは友愛團（ブラザフード）と稱されて居ました。けれども、消費組合の目的は新しき手段を以つて日常の必要品を供給するにあるのであつて、經濟學に於ける言葉の眞の意味で云へば、一種の營業です。兩者の目的が相違して居る證據は、佛蘭西の法律が其の兩方に別々な規定を造つたことによつても明らかです。

共濟組合には共濟組合特種の規定があり、消費組合には、又、その特種の規定があります。消費組合には資本金が必要であるに反して、共濟組合は其の時其の時の寄附金で充分であるからです。



集合的表現と知的生活

デュールクハイム

論理的な思想は多くの概念から成り立つてゐる。であるから、論理的な思想が生れるに付て、社會の力がどの位加はつてゐるかを研究することは、概念が造られるには社會がどの位あづかつて力あつたかを研究することになる。概念とはあらゆる種類の感覺的な表現——感覺的表現とは感覺、知覺、或は想像を云ふ——に相對峙するものである。

なぜなら、感覺的表現とは永久的な流れである。そして、丁度、川の流れの浪のようなもので、其の時々に或るかたちを現す。そして、それが續いてゐる間にもかたちは徐々に變つて行く。變つては行くが、併し、其れは、其れが現れた瞬間に於て、一ツの全き一部分となつてゐる。

そして、私共が一度經驗した智覺を私共は再び經驗することは出來ない。なぜなれば私共に或る知覺を與へたもの其れ

自身には變りはなくとも我々自身が常に變つて行くから。

これに反して概念は恰も時間にも變化にも超越したようなものである。概念は感覺の凡ての動搖がとゞかない深い處にあるのである。いはゞ概念は人の心の異つた部分に極めて平靜に存在してゐるようなものである。概念は內部的な、又は、自然の進化によつて變化しない。却つて、變化には抵抗するものである。概念は確定した、そして、結晶した一種の考へである。概念は、其れが理想である範圍內に於ては不變である。もし、概念が變化したとするならば、それは、其の概念の中に不完全なものがあつたために其れが修正されたのである。概念其れ自身は變化し得べき性質のものではない。其處で私共の毎日の生活に於て、私共が利用してゐる概念の組織は私共の言語の單語によつて表現されてゐる。なぜなれば、各々の言葉は如何なる言葉も一つの概念を表現してゐるものである。言葉は一つの確定したものである。言語は變化はするがそれは甚だ徐々たるものである。故に、言語は、其の言語が表現する概念の組織と同じものである。學者が自分の研究する學問に用ゆる學術語に關しては、學者と其の學術語との關係は、上の場合と同じである。從つて、特別な概念の計畫に關して學者の用ゆる學術語は彼の概念の變化に伴ふものである。故に、學者が發明を或ひは發見をなすことは、つまり、

新しいものを造ることは、其れ迄に設定されてあつた考へ方を破壊することになる。

概念は比較的不變であると同時に又一般的である。概念は一個人が所有するものではない。つまり、概念は共有財産である。これに反して、感覺は一人の人の意識から他の人の意識に傳へることは出來ない。感覺は一個人特有のもので一個人から取り去ることは出來ない。そして、對話、及び、凡て、人の智力上の交通は概念の交換である。故に概念は根本的には無人格な表現である。人間の理性が交通するのは此の概念を通してゞある。

概念の性質をこう云ふ風に定義を下すと、其の元來が明らかになる。もし、概念が凡てに共通であるとするならば其れは社會の仕事であつて、個人の仕事ではないのである。一つの特種の心のしるしを持つてゐないが故に、それは、多くの人の心が共に働いて、そして一定の方法に從つて、其の多くの人々が自分等を向上させやうとする無二の一つの理性によつて組立てられたものであることは明らかである。概念が、感覺よりも、或ひは、相像よりも、より多く確定したものであるとすれば、それは、集合的表現は、個人的表現よりもより確定したものであるからである。

個人は自分の環境に於て起る如何なる小さい變化にも氣が付くけれども、一社會の心は、餘程重大なる出來事でなけれ

ば、其の影響を受けない。特種の意志乃至は特種の理性の上に一様に影響を與へる一つの型の思想や行爲に私共が遭遇した度毎に其處から受ける壓迫は、則ち、其の新しい思想や行爲の干渉を受けたことを示すものである。

猶又前にも云つた如く、普通に私共が考へてゐる概念は私共の用ゆる言葉のうちに含まれた概念である。言語と、そして、其の言語が云ひ現す概念の組織は、集合的行爲の生産物であることは疑ふ餘地がない。其の言語が云ひ現すものは全體としての社會が經驗したものである。そして、此の言語の種々の要素に一致する思想が集合的の表現である。

其の思想の内容ですらも其の同じ事實を證明する。私共が常に用ゆる言葉の意義は、多少の範圍に於て、私共の人格的の經驗とならないものはない。私共が決して知覺したことのないものや、又は、私共が決して持たなかつた經驗や、或ひは、又、私共が曾て目撃したことのないい經驗を言葉は言ひ現してゐる。かくして、私共が自分では集めなかつた、從つて、個人的でない言葉のうちに煎じつめられた多くの知識がある。であるから、個人は、自分が使用してゐる言葉の全體の意味を知つて居ないことが度々ある。

これによつても、概念は集合的の表現であると云ふことが明らかである、もし、又、概念は全體としての社會に屬するものであるとしても其れ等の概念が其れに

一致する個人的表現のアベレージを代表してゐるのではない。なぜなれば、もし、さうとすれば、概念は其の智力上の内容に於て、個人的のものよりも貧弱と云ふことになる。實に、事實に於て、概念はアベレージな個人の智識よりも多くを含んでゐる。概念は、唯、特種の意識に於てのみ實在を持つ抽象のものではない。其れは、一個人が自分自身の環境から造り居る表現と同じように、具體的な表現である。概念は、社會が社會自身に固有な經驗を考へる過程と同じ過程を經てゐる。もし、概念が、殆んど、常に一般的思想であつて、特種のものに付てよりは、むしろ、階級的のものを表現するならば、それは、無類な變化し易いもの丶特長が社會に興味を與へたからである。けれどもさう云ふ事實は稀れである。そして、もう一つの理由は其の概念の一般的な、そして、永久的な性質よりはより以上のものによつて社會が影響を蒙らないからである。それ故、社會の注意を引くのはこの點である。則ち、概念が普通に持つて居る見解の下に一般的にものを見ることが社會の特質である。併し此の一般性は概念にとつて必然と云ふのではない。そして、いづれにしろ、これらの表現は其の屬性的な性質を持つてゐるとしても、其の表現を生むのは常に社會の仕事であり、そして、社會の經驗によつて豐富にされるものである。

さて、集合的意識は心理生活の最高な

形式である。なぜなれば集合的意識は多くの意識のうちの、又、其の意識である。個人的乃至は局部的の出來事の外に、そして、上に位してゐるから、ものを永久的な、そして、眞髓的なかたちに於てのみ見て、そして、それを人に傳へることが出來る思想に結晶せしめる。集合的意識は高所からものを見ると同時に、又、より遙かをも見る。其れは、各瞬間に於て既知の實在を抱擁してゐる。

故に集合的意識のみが個人の心に模型を與へることが出來る。そして、個人は其の模型を凡てのものに應用することが出來る。そして、凡てのものに付いて、人間に考へさせることが出來る。けれども、これらの模型は人爲的に出來るのではなく、集合的意識其のもの丶うちにあるのである。で、この枠は實在の凡て、則ち、進化の凡ての階段に於て見出される。けれども、其れが明瞭になつてゐるのは、其の絶頂に達した時に於てのみである。なぜなれば心理的生活の極端なる複雜さは意識のより大なる發達を必要とする。猶、又、集合的の表現のうちには、主觀的の要素が含まれてゐる。そして、私共が一層實在に近よろうとするならば、これらの主觀的要素を益々取り去らねばならない。

併し、此の集合的表現は、其の發端に於ては、如何に粗末なものであつても、それ等の表現と共に新しい智力の芽が與へられてある。そして、各個人は其の智

（四十二頁へ續く）



紐育ニユース

桑港からと同じように紐育から山田嘉吉氏が新聞や雜誌を送つて呉れました。其のうちから、主もに婦人に關する記事をとつて又此の一欄を設けました。

獨身者彈劾

政界の革命

大統領ハーデング氏のゴルフ相手なる上院議員フレドリック・ヘール氏は、獨身者であると云ふ理由から、上院議員としての其の位置を危ふされてゐる。ワシントンに於ける立法官として嚴肅なそして沈着な義務を盡すには既婚者の方がより以上の有資格者だと云ふ意見が稱へ出されたのである。

これは六月十九日の豫選會に於て、公認候補として既でに決定される筈になつてゐたヘール氏に反對してヤーマウス選出の上院議員ハワード・デビース氏が投げ入れた爭點である。

デビース氏は常に彼の妻女から立派な援助を受けてゐる。そして、この運動はメーン州に於て特別の興味を引かれて居る。何故なれば上院議員ヘール氏ばかりでなく、州の知事なるパーシバル・ピー・バックスター氏も獨身者であるから。のみならず、若しデビース氏の其の主張が通るならば州に於て重要任務に當つて居る幾人かの大人物が其の結果から苦しまなければならない。

此の問題に對する國家的見地

廣く國家的に見るならば、既婚者が獨身者に對する此政治的論爭は一つの革命的運動である。獨身者ヒイキの人達は、上院に於ける共和黨の首領であつた故ボイス・ペンローズ氏が獨身者ではあつたが非常に有力であつたこと、オハイオ州選出の前上院議員なるバートン氏は上院に於ての成功者として立派であつた事實或ひは、又、グローバー・クリーブランド氏は獨身で大統領に選擧され、其の後、ホワイトハウスに於いて妻を娶つた事實などを指摘して居る。

婦人參政權の影響

既婚者對獨身者の此の論爭は、全米國婦人が充分なる選擧權を握つて居る此時に當つて特に有意義なものとなつて居る。

デビース氏は其の主張を通すために婦人有權者間に烈しい運動をして居る。そして、其の運動方法の一つは、同氏夫人の書面の公開である。その書面の內容はデビース氏は家庭的の人であつて、家庭の問題をよく了解して居る故に、家庭的の責任を逃れて居る獨身者よりは遙かに有權者を擁護する資格がある、と言ふのである。

又、デビース氏は、メーン州婦人に對して、自身で公開狀を書いて居るが、それには、今日の狀況を述べそして、獨身者なるヘール氏と幸福な既婚者なる自分との間の上院議員としての資格をきつぱりと區別して示してゐる。

デビース氏は獨身者の上に烈しい誹謗を投げて居るが、氏は自分の主張を誤解される事を恐れて會議けて

云ふ。『家庭は社會の單位である。故に、如何なる人も新婚生活に入らないうちは、社會に於て適當の位置を得る事はできない。』と

全州の動搖

上院議員選擧に關することの新しい問題は、勿論、メーン州全部に一大動搖を起した。從來、州は上院議員及び、知事が獨身者であることによつて、不利を蒙るとは考へては居なかつた。デビース氏のこの爆彈が州に於てのみならず、合衆國全土に亘つて、思想の方向に變化を起すか、或ひは、又、害のない單なる人騒がせであつたとして終はるか、どうかは興味ある見ものである。此の次の豫選會には少なくとも、其の方向の幾分かが分るだらう。が、とにかく、メーン州に於ては上院議員候補者としては既婚者が優秀な資格者であると云ふ意味の書簡や貼札が渦を巻いてゐる。そして子供の守りをしたり、暖爐のそばで靜かに靴下の繕ひをして居る婦人が男子政治家の、はかり知れぬ價値ある伴侶であるかないかを定めやうとして男も女も暇さへあれば、舌端に火花を飛してゐる。

獨身者の沈默

上院議員ヘール氏及び知事バックスター氏は嚴肅な沈默を續けて居る。兩氏は、獨身者攻擊に對しては何等の答辯もして居ない。のみならず、獨身者は家庭の問題や家庭の煩を持つ男子よりも、より獻身的に政治に盡し得ることをも主張しない。

彼等は莊嚴なる沈默を續けてゐる。

メーン州選擧人は腕拱いて考へてゐる。

大學卒業婦人の電話係り

去る六月七日、オックスフォード、キャンブリッヂ及び其他の英國大學出身婦人が倫敦に於ける一洗濯屋

に於て就職試驗を受けた。

一大旅館の仕事を引き受けてゐるこの洗濯屋の支配人が今回電話係りとして禮儀正しい、氣だてのよい、忍耐深い婦人を求むべく廣告したのであつたが、（俸給二百五十封度）其れに對して八百人に餘る應募者があつた。そして、其の殆ど全部が大學の卒業生であつた。

洗濯屋の支配人は言ふて居る。この仕事に對して眞に必要なものは公平な判斷力と、機敏な氣轉である、と。

女の中の女

男の好む男は正直で、公平な心の持主で、常識に富んでゐて、深切であつて瑣々たる事には拘泥しない、尊敬に値する人物である。だから、男達の間で評判のよいような男と結婚するならば、大抵は間違はない。氣まぐれ者であつたり、怠け者であつたり、女の跡を追ひ廻したり、こせついたり、臆病であつたり、氣取り屋であつたり、洒落者だつたり、利己主義者であつたり、法螺吹であつたり、くどかつたり、吝嗇であつたり、或ひは、又、愚鈍であつたりする男は、男同志からも嫌はれる。

けれども、さう云ふやうな男でも、大抵は婦人に愛され、跡を追はれ、そして結婚しては居るが。

男が男の中の男を好むやうに、女も女の中の女を好む。そして、女に好まれる女は或る新しい型の女であつて、最近の此の奇蹟的な時代の現象である。ツイ數年前迄は、婦人が同性のうちに人望を得やうとする事は容易ならない事であつた。婦人が同性のうちに人望を得やうとするならば、貧素で、醜婦で、愚鈍で、人目を惹かないやうな婦人でなければならなかつた。けれども、有りがたいことには、そんな時代は既に過ぎ去つた。

婦人が美しい同性、或ひは、又、成功した同性を讃

美し、愛し得ないと云ふ時代は過去のものとなつた。異性を讃美すると同じ氣持で、同性を讃美し得ないと云ふ時代は、もう過ぎた。

女性同志のうちの特色であつた瑣々たる事に拘泥する事や、嫉妬心や競合心は、六月の朝の霧のやうに消え失せつつある。

姉妹らしい愛の光りが太陽のやうに輝き始めた。

女の中の女を婦人達は正視するやうになつた。

女の中の女とは、凡ての女達から信頼される女である。其の女の中の女には凡ての同性が、自己の秘密に就て、戀人に就て、或ひは良人に就て語り得る。

女の中の女は常に同性の事業を援助し、同情の美を稱讃し、そして、同性の成功を喝采する。女の中の女は、自分自身を輝す爲めに他の女のもつてゐる光りを消さうとしたり、又、自分が高くなる爲めに他の女を衝き除けようなどとは決してしない。

女の中の女は自分自身の仕事にこそ沒頭するが、他人の私事に差しでがましいことなどはしない。

女の中の女は趣味の深い、同情的な、愼しみ深い、心の廣い、優しい、氣轉のきいた、尊敬に價する婦人でなければならない。

女達はおしやべりや、氣取り屋や、高慢な者や、詐欺をする者や、男の跡を追ふ者や、下品なしやれを云ふものや或ひは奸婦を好まない。

女は男を盲目的に愛し、男は女を盲目的に愛すけれども、併し、女は女を、男は男を、見るに活眼を開いてゐる。

であるから、女の中で好評な女を選んで結婚するならば、男は幸福である。

女の中で評判の惡い女と結婚するならば、其の男こそ不幸である。

女の中の女、女に好かれる女、立派な女を祝福しやう！

彼女は輝ける星である。この渾沌とした世界をシッカリと輝す星・此の盛つた地上に於ける、たつた、一つの希望の光りである。（ヘレン・ローランド女史）

自己を統御する方法

この一文は言論界に有力な位置を占めてゐて婦人問題の權威だと云はれてゐるピートライス・フエーアフオックス女史が或る煩悶者に答へたものです。

「私は自分の性質を持て餘まして居る。私は告白するが、私は最も破壊的な怒りに熱してしまつて周圍の者を戰慄させることが度々ある。大きなことを云ふと思つて下さるな。何故なら私は世界中で一番哀れな男だ私の戀人は私との間の婚約を破つた。私は狂人になりさうだ。けれども私は彼女を取り戻し得ないのを知つて居る。そして、その原因は私の恐ろしい此の性質なのだ。何故、私は、こんなに苦しまなければならないのであらう？

　けれども私は知つて居る。私はもうどうすることも出來ないのだ。唯、一つ、あなたが今の私に對して、どう云ふことを云つて吳れるか、それに對して、私は鋭く好奇心を動してゐる。」

と、あなたは云ひましたね。それに對して私の云ふ事は全く單純です。私は、「あなたは自分自身を統御なさい」と云ひます。

「何だ馬鹿々々しい」とあなたは云ふでせう。けれども、私の云ふことが馬鹿々々しいと考へて、そして今迄通りに苦しみに陷る前に、私の云ふことを一通りおきゝなさい。私達の住む世界は思想に依て支配されてゐます。創造の神が私達のこの世界を造り、そして、此の世界の中に在る凡ゆるものを造りました。人生は直接の發生であるから、私達は此の人生の何處にも渾沌たるものを見ません。けれども、誤まつた思想があつて、其の思想が、此の地上に渾沌たるものがあると云ひます。そして其の誤まつた思想が勢力をもつて流

れ初めた時に殺人、戦争或ひは其の他の凡ゆる種類の厭はしい不幸を見なければならないのです。

あなたの言ふあなたのその性質をあなたは御し難いと言ふ。けれども、あなたの其の性質は、外部からあなたに喰付いてゐるものではなく、あなた自身が造つたものであるのです。

假りにあなたが激怒した事はないと信じて御らんなさい。假りにあなたが恐ろしい性質の所有者であると考へる代りに、温順な氣樂な人間であると考へて御らんなさい。そしてあなたが、自分は敵意ある性質をもつた人間だと一生懸命信じて居ると同じように、自分は温順な人間だと一生懸命に信ずるように努力して御らんなさい。さうしても猶あなたは、あなた自身の信御があなた自身を統御し得ないと思ひますか？

『私は温順な人間だ！　だが、感情が私を統御してはならない。私が感情を統御するのだ！』

と、云つて、立ち上がつて、何度も何度も自分は愉快な人間であると宣言して御らんなさい。自分の惡い性質に御世辭を使つて、其れを認める必要は少しもありません。あなたは深切であつて、凡ゆる人に友情を感じると宣言し、そして、誰もあなたに反對するものはない。又、あなたもあなた自身に反對してはならないと御考へなさい。それを一つの遊戯だと御思ひになつてもかまいません。併しその遊戯を終日止めてはいけません。

あなたがあなたの心を愉快にして、深切な行爲をなするに忙しくあるならば、あなたの心の中には、外のものが潜む場所がなくなるでせう。惡い性質を統御する方法は、その惡い性質にはゞをきかせないことです。

頭痛がする時に頭痛のことばかり思つてゐる間はその頭痛が私共を苦しめます。併し、若し、或る物がその考へを轉じさせるならば、その物に關はつて居る間は頭痛を忘れます。齒の痛む時も、亦、同じです。惡い性質を肯定するならば、其の惡い性質は大いに活躍します。けれども、善良な性質も矢張りその舞臺の中心を有つならば同じやうに活躍します。

其の善良な性質を活躍させる方法に出ないのは噓の行き方でありませう。

禁酒國に於ける飲酒犯及び其他の犯罪增加

紐育市の其の筋の報告によると、飲酒犯で拘引される者が年々増加してゐる。一九一九年には、五六五七人。一九二〇年には、六三四〇人。一九二一年には、六七二六人になつてゐる。

そして、全部の拘引者の數は、一九二一年には、一九一七年よりは、一三一〇〇〇人多くなつてゐる。それから、又、一九二一年中に徴收した罰金は一九一七年よりは八十萬弗多くなつてゐる。

又、統計に現れた過去四年間の重罪犯人の數は特に注目に價するものがある。なぜなら、最近迄は人口は年々増加してゐるにも拘らず、重罪犯人の數は目に付く程増加してはゐなかつたが、一九二一年には突然に非常な増加を示してゐる。卽ち、一九一七年の一八一六三件が一九二一年には急に二七七〇九件になつてゐる。其の他の輕罪人をも含めて、過ぐる五年間の拘引者の數を擧げて見ると、

一九十七年。　二四一一三五人。
一九一八年。　二〇一四六九人。
一九一九年。　二八三二六四人。
一九二〇年。　三六〇五五九人。
一九二一年。　三七二一〇〇人。

で、そして、徴收した罰金は

一九一七年。　四四六二二一弗七五仙
一九一八年。　四三八五五〇弗
一九一九年。　七二四五八八弗二十仙
一九二〇年。　一二一二七三八弗三十仙
一九二一年。　一二三四五〇九弗五十仙

になるが、確かに、この増加はミユラン・ゲーツ法の結果であると云はれてゐる。

過去十年間に拘引された酩酊者の數は次のようにな

る。

一九一二年。　二一五六七人。
一九一三年。　二一二八七人。
一九一四年。　一九七七五人。
一九一五年。　一九五八七人。
一九一六年。　一九〇七七人。
一九一七年。　一三一八二人。
一九一八年。　七二八四人。
一九一九年。　五六五七人。
一九二〇年。　六三四〇人。
一九二一年。　六七二六人。

それから、又、賭博のための拘引者は一九二〇年には僅かに五一人が一九二一年には一四八人になつてゐる。竊盜犯及び强盜犯は過去十年間は增加してゐない。

全體の犯罪のうちで、著しい增加を示して居るのは明らかに秩序安寧を亂したものである。たとへば、交通取締り規則を無視して、自動車及び其の他の運搬器の速力を規定以上に出した者、或ひは、衞生法違犯等である。其の外、夫、又は、父に捨てられた婦人及び小供の保護願ひが澤山ある。そして、これ等には、皆、ミュラン・ゲーツ法に觸れた者である。

又、失業の結果浮浪罪に問はるゝ者は一九一七年以來非常に減少してゐたにも拘らず、一九二〇年の九七六人が、一九二一年には一五二一人になつてゐる。

禁酒國なる米國に於て、飮酒犯と云ふ新しい罪人が續出すると同時に、他の種類の罪人が著しく增加することは大いに識者の注意を喚起する必要があると云はれてゐる。

悲痛なる女性の聲

六月十六日の東京朝日新聞『鐵箒』に、一女學生が、綱紀肅正を重んずべき新憲閣に妾を持つ人が椅子を占めてゐることを理由に、新内閣に顏をそむけると云つて居た。男子達は、これを一女學生のたわいない言葉だとして聞き流して置いてはならない。何百年、否、何千年の間、男子の放縱、其の不道德な行爲に惱まされ虐げられ、果ては、恨み死に死んだ何億萬の女性の憤りの聲の一端が此の女學生の口をかりてかすかに洩らされたものだと云ふことを男子達は知つて置く必要がある。

キューバ及び合衆國南部めぐり

山田嘉吉

五月二十日の日附で、今日、紐育へ着いてペンシルバニア・ホテルに投宿したと云ふ手紙を受け取つて、（其處迄は七月號の「合衆國横斷の記」に書いて置きました。）直ぐ、後から紐育からの第二信が來ると私は思つてゐました。處が、なか／＼參りません。十日過ぎても參りません。手紙よりは後れて着いた新聞や雜誌の包み紙を出してあちらの郵便局の消印を見ると、矢張り、五月二十一日の日附けでした。少し、不安を感じたり、又は、船の都合が惡るかつたのだらうとも思つたりして居るうちに、前述の手紙を受け取つてから十四日目で、郵便配逹人が手紙やら、繪端書やら、寫眞帖やら、ごた／＼と一緒に投げ込んで行きました。見ると、其れは豫期して居た紐育からではなく、キユーバのハバナ市からでありました。こちらを立つ時には、合衆國内の見る處は見てしまい足すだけの用事は足してしまつてからキユーバへ行き、再び紐育へ出て、其處から英國へ渡る豫定であつたのですが、其の豫定を變へて紐育へ着くと直ぐに、キユーバへ行つたのでした。

キユーバに一週間滯在して後、今度は合衆國の南部へ入り、名所古蹟を順々に經て、それから、又紐育へ出て、そして、いよ／＼英國に向ふ準備をして居ると云ふ處迄の通信を今日迄に得ました。

五月二十五日　キユーバ、ハヾナ市着。プラザ・ホテル投宿。紐育から汽車に乘つて、フイラデルフイア、ワシントン、バルテイモーア、及び其の他の大都會を素通りに四十八時間揺られ通しに汽車に揺られてキー・ワエストに着し、其處で蒸汽船に乘りかへてキユーバへ來た。

今度、通つた處は熱帶に近い地方であるから、汽車の中は隨分苦しかつた。それに引きかへて、船の上は實に爽快だつた。汽車の中は苦しかつたが、併し汽車の窓から見る光景は實に美しかつた。青々した田圃や野原、あちこちに見ゆる入江、小さい島と島をつないでゐるいくつも〳〵の橋、其れは實に繪を見るようだつた。

ハヾナも亦美しい處である。ハヾナ灣の入口は、たつた、三百五十ヤードしかないそうだが、併し、其のふところは大きく、數千の船舶が安全に碇泊し得ると云ふ。

ハヾナはキユーバの首府で、人口は二百萬、自動車の數は十萬ある。大部分の建築物は舊式で、奇妙に見ゆる。そして、それは此の都が一度、西班牙の王に統治されて居たことを思ひ起させる。西班牙の支配は一八九八年に終りを告げたのであるが、建築と言語は西班牙のものが殘つてゐる。一般に西班牙語が話されてゐるが、併し、合衆國と密接に關係するようになつて以來、英語が益々必要になつて來てゐる。

午前十一時から午後一時迄は食事の時間として定まつて居て、商人の取り引きも凡ての事務も皆ピタリ休んでしまう。夕方の六時には凡ての店が閉つてしまう。勿論、料理店は別だが。

市街のかたちは、前にも云つた通り、舊式で奇異の感じを持つが、併し新しいものがどし〳〵這入つて來るから何處を見ても新舊の混合である。ホテルは勿論歐米の最新式を採用してゐる。

ハヾナは實に愉快である。非常に暑いにも拘らず、爽快である。ハヾナ市民は快活で善良だ。悪い處を云へば一般に怠け者だが。婦人達は實に美しい。けれども、彼女等は働かない。彼女等の大抵は食べたり

呑んだり、踊つたりばかりして居るようだ。それが彼女等の仕事なのだ。合衆國の婦人達とは違つて、屋外で働く婦人が殆んど無いから、從つて婦人問題らしいものも起つてゐないようだ。コヽ、タバコなどが澤山出るが、併し、砂糖が此の國の產物の王である。

併し、何もかもがまだ見ぬ先きに想像してゐた通りだ。自分の先見が確かであつたことを聊か愉快に思つて居る。

六月二日　ニユー・オリアンス着。セント・チヤーレス・ホテル投宿。

五月三十一日　ハバナを出發して、海上に居ること二晝夜、六月二日正午に合衆國の南端ミシシピー川口に差しかゝる。雄大絶美なる此の川の兩岸を眺めながら走ること四時間の後、ニユー・オリアンスに到着した。實に、愉快であつた。

ロス・アンゼエルスが常春の國であるに引きかへて合衆國の南部にある此處は常夏の國である。合衆國の東部、北部、中西部に北風が吹きすさみ、雪のマントで覆はれてしまつて居る時、人々は此處へ來て夏氣分を味つて喜ぶ。毎年十二月から三月迄は多くの人か四方八方からあつまつて來て、四六時中絶へる時のない滿開の花と、熟した果實を樂しむで居ると云ふことだ。

六月五日　オハイオ州シンシンナタ市着。ホルテージホテル投宿。A氏の友人、T博士に御目にかゝつた博士はシンシンナタ大學の教授である。醫學部を參觀した。營養室などをも見せて貰つた。明日は護謨タイア製造所を見物に行く。

六月七日　ワシントン市着。ニユー・ウイラード・ホテル投宿。今朝七時半、當市へ來て、終日見物して歩いた。マウント・ヴアーノンに於ける、ジヨージ・ワシントンの家も見た。マウント・ヴアーノンはワシントン市から二十五哩離れてゐる。ジヨージ・ワシントンが其の氣高き晩年を送り、そして、永眠された處も此處である。其の庭園には今から百五十年も前にジヨージ・ワシントン自身の手で植へられた灌木や喬木が澤山ある。花床の恰好などはワシントン自

身が造つた其のまゝのかたちを保存してある。ジョージ・ワシントンの墓も矢張り此のマウント・ヴアーノン内にあつて、其れは單純に、煉瓦で圍はれてある。蔓草が花綵（フェスツーン）となつて其の構造物の嚴肅過ぎる氣分をやわらげて居る。扉を通して、中を見ると右側に大理石で出來たジョージ・ワシントンの棺と、其の傍に彼の妻マーサの棺とが見へる。扉の上の方にかゝつてゐるタブレットには「此の國の中にワシントン大將の遺骸が安置されてある」と書いてある。合衆國の國會議事堂（キャピトル）は堂々とした大きなものだ。建物の奥行きは七百五十一尺、幅三百五十尺あると云ふことだ。丸屋根の上に立つ自由を象徴した彫像は地面を離ること、三百〇七尺だと云ふ。此の建物の土臺石は一七九三年にジョージ・ワシントンの手によつて置かれたのである。

六月八日　バルテイモーア市着。エマソン・ホテル投宿。午後七時に此處へ來た。直ぐ、風呂に入つて夕食を取る。古風な處のある美しい都である。此處にあの有名なジョンス・ホプキンス大學がある。前大統領ウヰルソン氏其の他の大人物が出た處だ。新戸部博士も亦此の學校の出身だ。明日は紐育へ行く途中、米國獨立の發祥地なるフイラデルフイアに下車してインデペンデンス・ホールを見るつもりだ。

六月九日　再度紐育着。ペンシルバニア・ホテルへ歸つた。日本總領事館へ行くとうちから手紙が澤山來てゐた。うちからの便り程、心を強く引くものは外にない。明晩十時に、又、此處を立つてボストンに行き、明後日又、此處へ歸へる豫定だ。友人達の凡てに手紙を上げたいと思ふけれども、忙しくて〳〵其の意を得ないことは想像出來るだらう。機會のあつた時に其の趣きを凡ての友人達に傳へて置いて貰ひたい。

六月十一日　ボストン着。ボストン市の内外を見物して歩いた。當市の郊外にあるキャンブリッヂに於けるハーバード大學、其の他有名なものは皆見て歩いた。ボストンのパブリック公園は二十四エーカーの面積を占めてゐる。豐富な花、樹蔭の多い歩道、靜かな湖水のある此の公園が市の中心に接近してゐる

と云ふことは、市民の大なる幸福である。此處には青銅で出來た馬上のワシントンの像があるが、これは一八六九年に、一般からの醵金八萬四千圓を以て建造されたものである。

詩人ロングフエローの家も、又、ロングフエローの一人娘アリスの家も見た。本に出てゐる寫眞の通りだ。

紐育を立つ時には非常に暑かつたので外套のことなどは思ひ出しもしなかつた。けれども、ボストンに近かづくに從つて寒くなつて來た。ボストンはまるで冬のやうだつた。外套を持たないで本當に困つた

ボストンはニユー・イングランドに於ける文化の中心地であつたのだ。プユリタンの傳統を最も色彩濃く現して居るのも此處である。

六月十二日　今朝二時半、三度目に紐育へ來て直ぐ床に入り九時迄眠つた。これから英國へ向ふ仕度をする。英國へは十七日紐育港を出帆する五萬六千噸の汽船ニユウ・マヂエスチツクへ乘る。

今日は六月十五日だが、これが亞米利加で書く最後の手紙になる。だから物價に付て少し話して置かう

此のホテル（ペンシルバニヤ）の朝食は、グレープ・フルーツ、マシ、卵の半熟、ハツトキーキ、其れに丸パンとコーフイーが付て四圓。ローストビーフ一皿が二圓だから、晝食はどうしても六圓はかゝる。夕食は何にも特別なものは取らないで普通のものを食べてゐて、七圓乃至八圓である。勿論、皆、最上のものであるし、取扱ひも丁寧であるには相違ないが。

部屋代に付ては此の前話して置いた。（記者曰ふ本誌七月號六二頁に書いて置きました。）

衣服も決して安くはない。みつともなくないような男の服は出來合ひでも百圓以上出さなければない。もし誂へるならば百四十圓以上とられる。日本の物價が一番高いと云ふけれど、やつぱりさうでもない。

衣服容れトランクを一つ買つたが九十四圓取られた

チヨツキのないごく粗末な夏服に五十圓、チヨツキの付いたのに六十四圓拂つた。日本から穿いて來た靴はキー〳〵音がして屋内で穿くには何としても工合ひが惡いから、此所で一足買つたが、これは割合

ひに安い。十二圓だつた。勿論、上等ではないが。疲勞した時にはシカゴへ送られてあつた五月號を出して樂しんでゐる。原田琴子さんのものを幾度も〳〵興味深く讀んで、今更に、琴子さんの筆の力と其の純粹さを思ふ。

匣中鏡を見ながら街路を行く女を幾人も〳〵見た。彼女等は肉慾其のものであるように見ゆる程、肉感的で唯物的である。どうかして、異性の注意を引かうとすることが、彼女等の考への全部であるように見へる。

大部分の女の着物は全然女優の着物だ。彼女等は毎日芝居を踊つて居るのだ。

ウールウオース・ビルデングの頂上へ登つて見た。これはオフイス・ビルデングだが、高さは七百九十二尺一寸で、六十階ある。實に、其頂上は雲の上に突き出てゐる。雲が晴れて、紐育全市をハドソン川をも含めて一眸の下に見下した時には餘まりの素晴らしさに奇異の感じさへした。

歸國してから委細は話そうと思つてゐる。

人生は多くの人々に依つて旅行に譬へられてゐますが配偶者を失つた人々は此人生の旅路に於て道伴れにみまかられた如きものではないかと思ひます。旅は道伴れ世は情けと申しますから人生の旅路の半途に於て道伴れを失ひ、其亡骸を抱いて人生の旅行を終始せんとする人々は雄々しくも悲慘なる旅行者であります、其亡骸を捨てるには又人情に忍びない所のあるのは當然の事と思ひます。佛者は短い一生と申しますが旅途の半に道伴れた失つたものに取つては前途は茫洋として涯しもなく遠い事と思ひます。遺莫亡き人の殘せる子供を新らしき旅に上らすべく其成長を待つのはけだし大なる慰安でなければなりません。亡き骸を抱いた健氣なる旅行者と見え隱れに旅をしてゐる私共はそれに敬意を捧げてゐます。健氣なる旅行者よ健在なれ。

昨日は炎暑に稻の太るのを喜び乍ら妻と栗畑の草取りを致しました。婦人と新社會の論文は讀み了へませんが。御良人樣の通信は面白く讀みました。

（草間判二）



女戰士の武器

あの世界大戰爭前ですらも、歐洲諸國に於ては、海外に移住する青年男子が多いため、結婚難に惱む女子の數が少くなかつたのに、あの大戰爭で無數の男子を失つた結果は、女子の結婚難が著るしく増大されたこと、そして如何に女子が過多であるかと云ふことは統計に現れた數字によらなくとも、路上を歩む人々を一見したゞけで十分知り得ること。そしてまた歐洲諸國に於ては、その事實が多くの學者、社會學者の注意を引き、知力階級の絶えざる話題となつて居ると云ふことは本誌七月號に書いて置きましたが、近着の「デーリー・メール」によると、矢張り、この問題に就てオールドフイルド醫學博士が面白いことを云つてゐます。「一夫一婦制が設定されるまでは、女子過多問題と云ふものはなかつた。けれども、一夫一婦制が設定されて、漸々と女子の過多が告げられるやうになつた時、昔の教會は尼を多く造ることによつて、この問題を解決しようとした。けれども、この頃は女性を男性化してつまり女性としての作用を婦人に拒ませることによつて、この問題を解決しやうとしてゐる」と。何と云ふ皮肉でせう。又、博士は「人類發達の程度が極低い時分には、女を獲るための男同志の爭鬪は絶えなかつた。(男子の筋肉が女子のそれよりも發達してゐるのはこの時の遺物であるとウオードは云つてゐます、)男は、昔女を獲るための勇ましい戰士であつたが、この頃の文明國に於ては、一夫一婦制の結果、男はさうした爭鬪をする必要がなくなつた。其の代り女同志の爭鬪が始まつた。この頃は相手を獲やうとする勇ましい戰士は女である。そして、昔の男戰士が腕力を振ひ、競爭者

た倒すに用ふる武器は混棒、又は刃物であつたのだがこの頃の女戦士の武器は、着物、髪飾り、化粧品である。外の女よりは、より美しい着物の柄、より輝いた髪飾り、より有効な化粧品、刺戟のより強い香水を得なければならないので呉服店、仕立屋、小間物屋、化粧品屋は女達の絶えざる戦場である」

　と云つて、そして、さう云ふ必要を少しも感じないで地味な色の着物で納まつて居る男の心を捕へるための女の苦心を指摘してゐます。

「植物は異性を自分に牽きつけるために春になると、華美な色の花を咲かせ、香ばしいかをりを放つし、鳥類も亦異性の目を魅惑するために美しい輝いた羽毛を見せびらかすが、人間の女性はさう云ふものを恵まれてゐないので、彼女達は出來るなら、植物や鳥類の眞似をしたいだらうが、併し、それは出來ないので、とにかく、それに次ぐ最上を盡してゐる」とも云ひ、又「紅や、白粉や、着物の柄などに、一時男を捕へることが出來ても、永久に男を自分に繋いで置く武器ではないだらう」とも云つてゐます。

　これは餘りに婦人を侮辱した言葉でありますが、併し一般婦人の實状を顧みるなら、あながち、それを無根の誹謗だとして退けてしまふことも出來ません。

　一度或る婦人雜誌が「女性の崇高美」と云ふ題を出して諸名家の回答を求めた時に、或る方が「お化粧をして居る女の姿が崇高だ」と云ふやうなことを云つておゐでになりましたが、それは女が鏡に向つてお化粧をしてゐる時には、本當に一生懸命で眞劍でありますから、その一生懸命な處が、その方に崇高に見えたのだらうと思ひます。

　白粉ののび工合や、前髪のふくらみ加減を見る目の生々して居ること、氣がすむまで顔やえりをなでたり髪をいぢる指先きの器用に敏捷に動くことを見て、私もほと／＼感心してしまふことがあります。

　唯、單に一生懸命と云ふこと、眞劍と云ふことが尊いなら、婦人のこの時の態度は實に貴いと云はなければなりません。

　けれども、もしそれが男の目を惹くため、乃至は男を自分に繋ぐための手段だと考へる時に、何とも果敢

ない氣持ちがします。もし、又それが競爭者を倒すための武器のみがきだと思ふならば、憎惡の念をさへ感じて、心が暗くなります。

勿論、他人に失禮にならない程度に容姿をとゝのへるのは必要なことで、それとこれとは自から區別のあることを御斷りして置かなければなりません。

オールドフイルド博士は、又「音樂を樂しむこと好きな煙草や酒をのむこと、野外運動に耽ることなどは皆、人生に於ける娛樂ではあるが、併し男女がお互ひのうちに愛と慰安を見出して同棲することに比ぶるなら、それ等の娛樂は無になつてしまふ」と云つて多數の過多になつた女子に同情して居るのでありますが、それ等の女子にとつては普通の手段では良人が得られないのですから、時には馬鹿なまねをしても恕さなければならない場合もありませうが、併し我が日本では先づ普通の婦人には結婚難は無いのですから、さう外部のお化粧に一生懸命に眞劍にならなくても、もう少し頭の中のお化粧に心を向ける餘裕がある筈だと私は思ひます。

着物の色や、髮飾りの光りや紅や白粉のにほひに、引きよせられ、繋がれて居るやうな男は、どうせ浮氣者です。共白髮の末迄も苦樂を共にすることが出來るやうな男は、そんな人工的な美や、にほひよりも、精神の美、魂の輝きの方に目をつけるでせう。

白粉ののび工合ひや、前髮のふくらみ加減に費す暇と努力を、知力ののび工合ひや精神の向上加減に用ひて居たいものだと思ひます。

（二十四頁から）

力の芽が生へてゐる處迄自分自身の努力によつてのみでは達することが出來なかつたと云ふ事實は依然と存してゐる。其の集合的表現によつてしつかりした無人格なそして組織された思想に達する道は開かれたのである。そして其の思想は其れ自身の性質を發達させる外には何等の役目をも持たないのである。



ある夜の出來事

原田琴子

ある晩いつものやうに子供をねかしつけて、つひ自分もうと〳〵として、どの位ゐ時間が經つたのかもしらずふと目を覺ますと、女中が次の間の茶の間の電燈の笠を兩手でさゝげるやうにして持つたまゝ、妙な顏をしてゐる、「どうしたの？」と半身を起しながら訊くと、

「どうしたんでございませう、奥樣、こゝから煙が出ますんですよ、笠をさげますと、あら！かうして持つて居れば出ませんが、まあ氣味がわるい、どうしたんでございませう」と聲色を變へて云ふ。

漏電！と私はすぐ思つた、そして急いで起きて襟をかき合せながらそこへ行つて見た、くさい、ゴムくさいにをひがする。

「漏電かしら」

「この間からどうもしないのによく消えたりして變だつたんで御座います、どう致しませう、且



那樣はお留守で！」

田舎から出て來てまだ一と月にもならない若い女中は、おど〳〵と泣かんばかりになつて云ふ

「まあお待ち、左樣やつて笠を持つてゐれば煙は出ないのかい、ちや暫らく左樣しておいで」

心の驚きをしいて制へつけようとしながら私は茶箪笥の上の時計を見た、十一時少し前になつてゐる――。

非常な時には何でも安全器を開ければいゝといふことだ――と私は思つた、だが不注意にも私は、安全器がどこにあるのか知つてはゐなかつた、今大急ぎでそれのありかを探さうとするのだつた。まづ第一に臺所へ行つて、隅々を眺めた、けれどもそれらしいものもない、玄關へ行つても、廊下へまわつても――やつぱり無い、つひに庭へ下りて外の方を見たけれど無い、私は途方に暮れた、全精神をこめて探しながらにも今に電燈がどうかなりはしないかと氣が氣ではないのだ。

「奥樣、ございませんの？」と女中が云ふ。

「一寸待つてお呉れ」と私はまた云つた、下駄をつゝかけたまゝ私は庭から門の方へ急いで出たそして戸外へ行つた。



通りにはかなりの風が吹いてゐる、私は驅けるやうにして家から二三軒離れた帽子屋さん―それは私の家の差配のやうなことをしてゐる深切な老人達の家だつた―へと急いだ、だがそこの前まで行つてみるともう戸はぴつしやり閉まつてゐた、さうだ、もう夜更けなんだからと私は思つて立ちすくんだ、いくら何でも私は人の安眠を破る氣にはなれなかつた、と云つて―かうしてゐる瞬間にも家はどうなつてゐるやらしれぬ燃え出して火事になつて、不馴れな女中が寢てゐる二人の子供をどうしてつれ出したらいゝか困つて泣き叫んでゐるかもしれぬと思はれた、風はこんなにある、こんな晩火事になつたら近所の家々へもすまない、どうしよう！ と私は隣家の朝晩の挨拶位ひはとり交してゐる間の下宿屋の門内を覗ひて見た、だがこゝももうひつそりとして人の聲もしない、私は玄關から

「どうして、まだどうもならないの？」と聲をかけながらまたうちへ入つてみた。

『えゝ』と女中はやゝ落付いたやうな聲で云ふ。となりの室からは赤ん坊の啼く聲がしきりにする、またぐずり出したと私は一層いら〱した、然し今は赤ん坊の啼くのに構つてなぞゐられなかつた。私は電燈會社へ電話をかけようと考へた、まづ番號を探さなければならない―

室内の電燈といふものにはさう大して危險ではない、室内の電燈で感電して死ぬなんてことはな



いといふどこかで聞いたことが、電話帖の頁を繰りながらにも私の頭に浮んだ。然し——この間からの方々での火事の原因は漏電といふのが多かつた、そして今夜はこんな風である——

やつと分つた番號をよんで私は電燈會社へかけた。いゝあんばいにすぐ通じた。所番地を云つて『うちの電燈が變なのです、笠の上から煙が出てゴム臭いのですが、すぐ來てみて下さいませんか』とたのむと

『今夜はもう遲いんですからね、あした、朝行きませう』と向ふは平氣な調子で云ふ、何といふ呑氣な！　と私は腹が立つた、

『でもあぶないと思ふんですが』

『どこです、室内ですか、それではそこだけ消しとけば大丈夫です、一晩位ゐ』といふ。しかたがないので私はそのまゝ電話をきつた。消したところで電氣が來なくなるわけぢやないだらうにと思ひはするもののそれ以上何の深い知識も電燈について抱いてはゐないので、まあ會社であゝいふんだから危險なこともあるまいと極めて貧しい安全をとりとめて、

『消しとけば、いゝと云ふからね』と私は女中に云つた。

『左樣でせうかほんとに』と女中は不安さうに云ふ、パチッとひねると一層ゴム臭いのが感じら



れた。

「會社で左樣いふんだかられ、火事になれば責任は會社にあるわけだわ」

しいて笑ひながら云つて、子供をみようと次ぎの間へ行きはしたもの〻私はなほその消した電燈から眼が放せなかつた。

何故消して置けば危險がないのか、それを會社の人に訊くのも變なので默つてゐたが、その說明がつかない以上私の不安は除けなかつた、更にまたこんなことの說明もつかないほどプーアな自分の科學に對する知識が情なかつた。さしあたつてたゞ一つの賴り所は、早く良人が歸つてくればい〻といふことだけだつた。每月あるW社の會でいつも十二時をすぎてかへるのが例なのだこんなに風はある――と又しても戶外の風の音が私の胸をさわがした。

子供に乳を含ませながら私はなんともいへない一刻々々を過した、早く時がたてばい〻、良人が歸つて來たら、まあその上で。何が起らうとしかたがないと思へるのだつた。

十二時を過ぎて良人は歸つて來た、わけを話して私はすぐ說明を求めた。

「紐のこの二つ撚り合さつてゐるのが一方は陰電氣で一方は陽電氣なんでせう、こ〻でひれるとそれが合致して火が點くのなんだらうと思ふがれ、それが途中で合致するとつまり漏電して燃え



ゐるわけなんでせう、あゝなるほどこゝが切れてゐるからね、消しておけば何故大丈夫なのか――そりやあ消したつて電流はきてゐるわけなんだが、こゝで止まつてるといふのかしら、なにしろ暗くて困るね、明日もし早く來てくれなかつたらまた電話をかけるんだね」

良人は私のやうに氣にはかけなかつた、忙しい仕事を澤山持つてゐる彼は、そんな事に氣などとられてはゐられないといつた風にさつさと必要な書物を寢床のそばへ運んで横になつて、讀み始めた。私はもの足らなかつたものゝとにかくほつと一息つけるやうな氣持ちであたりを片づけて寢る支度をした、念のため消した電燈の下へは水を入れた洗面器を置いた、萬一もえ出しても畳を焦がさぬために――まさか不寢の番も出來ない、さう思つて私は床についた。

翌日になると私は午前の中から電燈會社の人の來るのを待つた、けれども午後になつてさへなか〳〵來なかつた、幾度も〳〵電話をかけてやう〳〵のことで來てくれたのはもうあかりがついてから――夕飯間近かくなつてからだつた。

「なあに紐の一本位ゐもえたつて大したことはありません、この上の方は瀬戸物なんですから火事になるなんてことはありません」

ぎり〳〵と何かで廻して紐をとりかへながら工事をする人は云つた。



「こゝはこんなところだからすぐ分りますけれどね、天井裏なぞでも火出したら危險でせう。」

いつも火出すから分らないといふ不安に脅かされながら私は云つた。

「それは大丈夫です。ゴムで卷いてあるのですから」

「では——方々で漏電して火事になるのは如何してでせう。」

「それは工事のしようが粗漏だつたからです」

一向何の興味もなささうに答へて、その人は仕事をするのだつた。

私は何といふこともなく馬鹿々々しくなつた、昨夜のあの驚きやうは、あわてやうは！　此位燃えても決して大事に到るものでないといふ事を知らなかつたばかりにどんなに私は狼狽しただらう！　思へば私は、せめて女學校の家事の時間にでもかういふ事についての知識を與へて貰ひたかつた、着物の疊み方や洗濯法なぞを習ふ間に！　日常化學の講演、ふと私はそんな事を考へた。電燈についてばかりではない、毎日一日もかゝさず使つてゐる瓦斯のメートルの事なぞもなんにも私は知つては居ないのだ、なんといふ貧しい私の知識だらう、私は情なくなるばかりだつた。

教育社會學講話（第十六回）

社會心の研究

群集的行爲

社會心には、其の强弱、長短に於て、いろ〳〵の度があります。そして、最も短時間しか續かない、けれども、强度の社會心の例は、群集的行爲（モップ）のうちに現れてゐます。そして、此の群集的行爲は、同じような種類の人々の群と、異つた社會心を持つた人々との間に衝突があつた場合に起ります。そして、これは、學生のうちに多くの例を見ます。

或る敎師が、不具の生徒を嚴しく罰しました。すると、其の不具な生徒の學友達が承知しません。其の敎師が外出するのを待ち伏せしてゐて、そして、其の敎師に生徒

變がゝりで暴行を行へました。其の敎師は即座に辭職して他の地方に行つてしまいました。

又、或る學校の敎師は、かたくなな生徒を罰しました。其の生徒は罰せられる理由があつたのですが、併し、敎師が自制を失つたゝめに、少し、罰し方がきつ過ぎました。すると罰せられた生徒の親が承知しないで、學務委員を訪問したり、町中に檄を飛ばしたりした結果、生徒が罰せられてから、まだ、十二時間も過ぎないうちに町中が鼎の沸くような騷ぎになりました。暴行が現れかねないような形勢にさへなりました。で、其の敎師が職を辭さないうちは到底町民の心は納まらないのでした。

複雜になつてゐる社會に於ては、此の群集的行爲が危險視されてゐます。そして、群集心に捕へられることは、敎養の低いしるしだと云ふような情操が今日に於ては構成されつゝあります。ですから、相當に敎養ある都會人は、群集心が出來上がらうとする形勢を見るならば、其れに對して直ぐ用心します。

群集を取り扱ふ經驗を持つ人は、たとへば、巡査とか門衞とか云ふ人は、どう云ふ風に處置すれば群集が穩かであるかを知つて居る筈です。群集心が構成されそうになつた場合に、其れに直接反抗する態度に出るならば、其の群集心は益々强くなるばかりです。けれども、穩和な心をもつて同情的態度に出るならば、群集の心は鎭まります。

大勢の人が一堂に會した時に、議長、又は委員が必要であると云ふことは、會が混雜に陷つたり、危險な群集心が構成されるのを防ぐために、人々を整理し、秩序を保たうとするのです。これは、文明人は皆心得て居る方法ですが、此の文明的の方法を子供達は敎へられて行かなければなりません。ですから、學校の敎師達は、殊に、校長達は群集心と云ふもの、群集的行爲と云ふものに付て理解して居なければならないのです。

或る朝、或る新任の敎師が登校して見ると、生徒達は凡て敎室內に居つて、そして

喧囂を極めて居ました。其れを鎮めて、秩序を保たうとしても生徒達はどうしても教師の思ふようになりません。其處で教師は學監を呼びました。學監は少しも恐い顔をせずに、むしろ、ニコ〳〵して前列の生徒達に話しかけました。前列の生徒の心は學監の言葉に引きつけられました。前列の生徒が學監の云ふことに耳を傾け始めたので其の次の列の生徒も注意を學監の方に向けるし、順々に學監の方を向ひて、ツイに生徒全部が心を學監に捕へられてしまひました。そして、忽ち、教室の整理が出來たと云ふ話もあります。

穩和な社會心

群集心が統御され、そして、穩和なかたちになると、これは有益な社會心となります。そして、此の穩和な社會心も學生達の間によく現れてゐます。それは、一年中、何かしらの遊戲のうちに現れてゐます。そして、それは、勿論、季節の影響を受けます。冬は屋内の遊びに、夏は海に山に遊び場所を求めますが、これは、皆、一般に構

成されて居る社會心に動かされて居るのです、衣服の流行も、亦、社會心です。そして、此の頃では印刷物の手段によつて、其の社會心の範圍は非常に廣くなつてゐます。

宗敎上の信仰も、亦、一ッの社會心です。其の力は、今は、餘程、弱くはなつてゐますが。

とにかく、現代に於ては、如何なる種類の人々の群も、亦、如何なる地方的特色を持つた地方人も、他の人々の群、他の地方人との交通が頻繁になつて居ますから、それ〴〵の特色は追々薄らぎつゝあります。

社會心は感情が基礎

社會心が構成される過程は、冷靜な智的活動であるように、今迄は考へられて居ました。けれども、近世の社會學者は、人々は智力によつてよりも、感情により多く動かされて居ることを我々に敎へて居ます。そして、社會心理學者は說明してゐます。

大勢、人が集まつて、そして、其の人々が組織されて居ないならば、其の人々は殆んど智力を用ひないと云ふことを。

たとへ、重要な事件に關してゞも、一般の人は適確な論點を掴んではゐません。從つて、動かすことの出來ない信仰の上に出來上がつたと云ふような確かな輿論と云ふものはめつたにない。民衆のうちには、唯、單に、共通な感情があるばかりです。そして、其の感情の一部分は過去から傳へられたもの、一部分は、自身の經驗から得て來たものです。

又、學校の運動會場に於て、全校の生徒が、夢中になつて勝負を爭つて居る競技者に聲援をする場合ひ、又は、學生劇をするために毎日々々練習をして居る時には、凡ての生徒の心に自分の學校を思ふ忠義心が燃へ上がります。けれども、それは、決して道理を基礎としたものでないと云ふことは誰にでも明らかです。生徒達は、唯、感情に動かされてゐます。此の學校精神は、つまり、母校愛は、代々の生徒に傳へるため

の努力を拂ふことによつて、實在のものとなります。古い建物や、記念物や、校歌や儀式などは學校の精神を傳へる仲立となります。

『韻律は、多くの人々の心を一ツにまとめるに付て偉大な力を持つて居る。本能を動かして結束させる無二の力である。……普通では動かすことが出來ない重いものでも又は、多くの人が別々にどんなに力を出しても動かせないものでも、其處に韻律の神を呼ぶならば、たやすく、其の重いものを持ち運びすることが出來る。人々が共に歌つたり、行進したり、踊つたりして居る時には、各人が他の人の爲しつゝあること、これから爲さうとすることを知つてゐる。のみならず、他の人の感じて居ることの大部分をも知つてゐる。で共に歌つてゐる其の歌によつて、相互が完全に了解し合ふ……凡ての學校には校歌がある。凡ての有力な國家には國歌があり、教會には、勿論、聖歌があり、大抵の團體にも其の主義を云ひ現した歌がある。……實に、韻律は想像力を深くする。そして、或る計畫された目的に向つて熱心に進ましめる。……であるか

ら、國家が國家の精神を歌はしめ、踊らさしむる機會を小國民のために造ることは最大重要事である。』と、リー博士は『敎育に於ける遊戯』のうちで云つてゐます。

合理的一致と形式的一致

ギデングスは『合理的一致』と『形式的一致』と云ふことを區別して置きました。形式的一致と云ふのは、會員の凡てが、過去から傳つて來たものを其のまゝ繼承し、何等の疑問を起すこともなく、又、世間には自分等と違つた考へを持つた人間があると云ふことも氣付かずに居るような人々の團體を云ひます。これに反して、他の團體との交通の結果は、人々には非常な差があることを知り、其の差が議論の種となります。そして、其の差を讓り合はうとしないならば、爭ひは納まりません。けれども、必要がどうしても其の讓り合ひを强います。ですから、議論は、つまり、讓り合ひをする過程となります。かくして、議論が合理的一致を造ります。つまり、健實な輿論を基礎に一致團結することになります。

で、さう云ふ合理的な一致團結の上に出來た社會心は、爆發して暴行に出ると云ふようなことありません。さう云ふ社會心は聰明であつて、新しい周圍の狀態に適應して行くことが出來ます。そして、これが最も健質な輿論の結果です。

普通の輿論と特別な意見

クーレーは普通の輿論と、特別な精練された意見との區別をしてゐます。普通の輿論とは、普通一般の多くの人がものを大ざつぱに見ての一致した意見であると云ひ、そして、詳細に付ての知識、及び、實行に關しては特別な精練された意見に委ねて置くべきだと云ふのです。たとへば、或る一團體が野外運動をしようとします。すると團體の會員が、贊成の投票をします。贊成と云ふことになると、場所の選定、又は、時日を投票によつて定めます。或ひは、又、其の仕事を進めるに付て特別の知識を持つ者を委員として投票によつて定めます。此處迄は其の團體の一般的輿論です。すると、委員がズンズン仕事を進めて行きます。そして、會員全體に報告すべきは報告し

計ることがあれば計るし、又、萬事に付て全然委任されることもあります。とにかく此の委員が特別な意見の持主と云ふことになりませう。

もし、一ッの團體のうちに幾つかの異つた意見があるとします。すると、其のうちの最も勝れた一ッの意見を先づ取らなければなりません。或ひは、いくつかの意見を混合しなければなりません。そして、どちらにしても、矛盾のない一つの意見としなければならないのです。一ッの意見を取るか、或ひは、又、いくつかの意見をとつて其れを式に造つて、全會員の協賛を得なければなりませんが其れは其の團體の指導者の仕事です。

ですから、指導者は特別な知識の持主で無くとも、少くとも、時の事情をはつきりと見得る人でなければなりません。そして、計畫を立て、其れを會員全體に了解させそして、實行に移す手腕がなければなりません。指導者は、又、全會員の信頼を受けるためには確實でなければなりません。彼の計畫が最上であると云ふ自信を示し、善

をするためには反對を恐れぬと云ふ意氣を示し、會員の利害に付いて注意深いと云ふこと、自分の手に委ねられたものを決して私用はしないと云ふ信用を受けて居なければならないのです。其の上に、團體と自分とを別に見ない、云ひ直せば、團體の中へ自分を入れてしまうか、又は、自分の中へ團體を入れてしまう程、心が大きくなければならないのです。一言で云へば、團體の指導者は、團體全體に渡る神經系統を持つた人間で、團體内に起る事柄は大小に拘らず、ピリッと自分にひゞひて來て、そして全體を自分自身のうちにまとめることが出來なければならないのです。

輿論と、精錬された意見と、指導と云ふことは密接に撚り合はされてゐるものです。

或る小學校の校長が毎日運動場へ出ては、生徒達の遊びを指導したり、時には一緒に遊んだりしました。其れによつて、生徒達は遊びの本當の意義、正義と公平と云ふことを學びました。其れは、又、敎室に於ける授業と同等に、或ひは、其れ以上に効果があると云ふことが立證されました。處が、學務委員會が其の校長に通達して、校

長の其の態度は校長としての威嚴にかゝはるから止めて貰いたいと云ふこと、學生達が校長を尊敬しなくなると云ふこと、そして、學生の父兄も校長の其の態度には反對であることを云ひました。けれども、校長は學務委員會の意見に從ふことの代りに、以前の態度を續けました。

そして、校長は學生達からは永久に忘れることの出來ない感謝を受けるし、視學官からは觀賞されたのでした。其れにも拘らず、學生の父兄達に好まれないで、遂ひに彼は其の學校を退かなければならなくなりましたが、其の代り、彼は一躍中學校の校長として位置を得ました、そして今日に於ては、彼は敎育界の一權威となつて居ます。

此の場合に於て、考へて見ると、此の校長に對する其の地方の輿論は一致して居ます。則ち校長を排斥しようとする點に於て。そして、これはものを深く理解し得ない一般的輿論です。けれども視學官の特別な精練された意見が校長の考へとピッタリ合ひました。其結果、校長は其地方を越へて廣く其能力を認められたと云ふわけです。

本誌定價表

一冊	金二十五錢	送料五厘
六冊	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二冊	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年七月二十三日印刷納本
大正十一年八月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人 大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所 婦人と新社會社
振替東京五三六八八

□山田わか著

□四六特三百五十頁　定價金貳圓□
□總クロース美本　送料金拾五錢□

再版

戀愛の社會的意義

目次大要

富を造る事と幸福を造る事――戀愛と結婚――戀愛に對する男子の態度――菊榮氏の「女も進んで求婚すべし」に附て――結婚道德の一ッ――墮胎に附て――戀愛の自由と本能――女子教育の基調――産業機關は臺所のため――戀愛と藝術――家庭を追はれた産業婦人――婦人運動の歸着點――メレデスの靈肉觀――母と社會政革――婦人の智的生活――禽獸の親子關係【其他十七問題】

發賣所　振替東京五三六八八　東京市四谷區南伊賀町四十一番地　婦人と新社會社